

様式第2（第5条関係）

会議録

1 附属機関の名称

犬山市休日急病診療所運営協議会

2 開催日時

令和3年7月30日（金） 午後2時00分から3時00分まで

3 開催場所

犬山市民健康館 204会議室

4 出席した者の氏名

- (1) 委員 松浦英幸、宮崎貢一、榊原吉峰、山本敬三、畑竜介、鈴木伸太郎、玉置幸哉、
永田淑規、吉原支郎、水野尚子
- (2) 事務局 健康福祉部 高木部長
健康推進課（三輪課長、野村課長補佐、小川統括主査、吉永主任主査）

5 議題

- (1) 令和2年度犬山市休日急病診療所実績報告について
- (2) 在宅夜間当番実績報告について
- (3) その他

6 傍聴人の数

0人

7 内容

- (1) 令和元年度犬山市休日急病診療所実績報告
- (2) 在宅夜間当番実績報告
- (3) 昨年度会議での意見について、その後の対応を報告

（事務局から内容について資料で議題(1)(2)を一括説明）

委員：資料1の休日急病診療所収支状況をみると、受診控えやコロナ禍ではありますが、受診者が減り、今年度3000万の赤字となっています。前年は1800万の赤字で赤字幅が拡大しています。受診者数も市民の1%未満でもあることから、税金面から考えて診療所の在り方を考えなくてはいけない時期が来ているのではないでしょう

か。

会長：先生たちのご意見は？

委員：市民は必要に応じて診療所にかかるものですから、患者数はコントロールできないものです。コロナ禍では、収支は厳しいものになってしまいます。民間の医療機関も同じです。不安になります。コロナが落ち着けば、今までどおりになるのではないのでしょうか。コロナによる受診控えもあったでしょうし、世間でよくいうコンビニ受診もあったと思います。

委員：診療所はもしものためになれば困ります。コロナの感染状況に応じて受診者数の変動は非常に激しいです。収支だけをみると厳しいですが、サービスの一環として診療所は継続していかなければならないと思います。

委員：ふたりの委員のいうとおり、診療所はなくてはならないもので、予算はある程度必要です。コロナは予想外のものと考えて、市民サービスとしてなくてはならないものと位置付けてほしいです。

会長：ありがとうございます。

委員：先生方にはコロナ禍、休日お忙しいところ対応していただきありがとうございます。昭和56年に診療所施設が建ち、40年経過していますので、施設自体、老朽化にどう対応していくか、また先生たちを前に、釈迦に説法になってしまいますが、医療機器の更新をどうしていくのかも考えていかなければならないです。またここ数十年の間に、24時間、365日診てもらえる大きな病院が出てきたという時代の変化もあります。一方で近隣自治体はある程度足並みを揃える必要があるとも考えています。先ほどの先生方の熱意も勘案しながら、診療所の在り方をそろそろ議論する時期がきているのではないかと私は思います。診療所ができた40年前とは、社会情勢が大きく変わっています。

会長：ご意見ありがとうございます。意見というよりは提案に近いですね。40年というのは結構な年数です。行政としてそのあたり総論的なものでもいいので何かお答えできるものはありますか。

事務局：40年経っていますが、耐震的にも問題ありませんし、必要な修繕は行っています。ハード面では大丈夫です。またいろいろな医療機関があるというお話ですが、一次救急、二次救急、三次救急という位置づけが医療機関にはあります。一次救急は身近な診療所であり、休日急病診療所もここになります。二次救急は手術とか入院が必要なところ、ここですと犬山中央病院や江南厚生病院になります。江南厚生病院は実はさらに高度な三次救急もやっています。他の三次救急はこのあたりだと小牧市民病院となります。このような段階があり、各患者さんが足を運んでいるのですが、犬山市休日急病診療所は、一次救急として診療を行っており、一次救急としての設備はあり、設備が十分でなくここでは治療が無理だというケースであれば、二次救急を案内していると認識しています。

会長：このことは絶えず意識していくテーマととらえてもいいかもしれないですね。

委員：資料をみると、患者が減っているからだと思いますが、医薬材料費が減っています。一人当たりの単価もだいぶ変わっています。そのあたりの説明をもう少しききたいです。

事務局：令和元年度はインフルエンザの患者様が多かったため、検査も含め一人当たりの医薬材料費の単価は高めでした。昨年度はインフルエンザの患者様がほとんどいなかったので医薬材料費が大きく下がりました。

委員：新型コロナウイルスの関係で、普通、先生の診療所へ行った場合、発熱や倦怠感があつたりすると、先生たちの判断でPCRキットを渡し、江南保健所へいってもらおうと思いますが、休日急病診療所ではどういった流れになっているのでしょうか。

事務局：江南保健所から検査ができるキットは前もって預かっていて、必要に応じて使うことになっています。年末年始は若干キットを使ったケースがありましたが、それ以降は使いませんでした。

委員：消防隊は完全な防護服を着用して出動していますが、ここで働いている人たちはどのような装備なのでしょうか。

事務局：フェイスシールド等は常備しています。感染の疑いのある患者様は、まず建物に入る前に電話による診察をおこなっています。重装備はありますが着用していません。

委員：夜間診療は364名の実績があり、当番の担当医にて各々診療を行っていると思いますが、この時の診療料は、一旦市へ入ることになるのでしょうか。それとも直接担当医院へ入るのでしょうか。資料の収支状況の診療料に反映されているのでしょうか。

事務局：各病院に収入として直接入ります。市へは入ってきません。

委員：わかりました。昼間の512名は休日急病診療所に行って、その6割近い364名の方が夜に各先生のクリニックに行ったという認識でよいのでしょうか。

事務局：夜間、急に具合が悪くなっていった方や、夜まで待って当番医に行った方などいろいろなパターンがあります。（その総数364名です）

委員：資料6ページの書式について、但し書きで、収支の差額を一般財源からとしています。公文書として残しておくには、収入と支出の合計額を同じにしておいた方がよいのではないのでしょうか。

事務局：収入の項目に一般財源を追加して、差し引き同額にするということでしょうか。

委員：そうです。正しい書式はそうではないのでしょうか。バランスをとっておかないといけないです。

事務局：来年度以降検討させていただきます。

委員：資料として残っていくので、今年度から直すべきではないのでしょうか。またこの資

料だと決算はよいのですが予算がよくわかりません。予算の収支の差額が1400万円ぐらいありますが、内容が書かれておらず、どうなっているのかよくわかりません。最初から赤字前提で予算を組んでいたのでしょうか。そのあたりも含めて資料をしっかりとしておく必要があると私は考えます。

事務局：特別会計で行う事業は、委員の言われた収入と支出の合計額が一致した決算書の形式になると思います。しかし、休日診療所事業は、一般会計にて運営されており、事業のための特定財源以外の一般財源を使っていますので、赤字になります。資料の収入項目には、特定財源のみを記載していますが、市税などが集約された一般財源は個別に切り分けにくく、同箇所に入れると、見にくく、誤魔化しているようにも見えてしまうため、今回、一番簡単な形で、補足的に書かせていただきました。一般会計事業なので、皆様のご理解がしやすい書式であれば、記載方法には〇も×もないと考えています。

委員：わかりました。

事務局：こちらでも会計や財政担当課等に書き方が間違っていないか確認します。

委員：横道にずれて申し訳ありませんでした。

会長：どちらの意見もよくわかります。ほかにご意見はありませんか。

委員：他の委員の意見も聞きたいです。

委員：自分の事業は経費的には人件費の割合が多いです。休日診療所事業が統合されて、例えば他の病院で行った場合、人件費によって事業経費が逆に上がってしまうケースがあるのではと危惧しています。

委員：コロナの影響をうけた1年2年の収支をみただけで、事業の在り方を考え直すのは時期尚早だと思います。市民に理解を得られないと思います。また古い建物の利用や患者を車の中で待たしている状況も疑問に思います。

委員：医療関係の施設はあってほしいです。大切な場所です。そこをどうするのかという議論中でなくしていくというのは困ります。確かに赤字ですが、必要な場所でお金がかかるのは仕方ないと思います。

会長：ありがとうございました。その他よろしいでしょうか。

委員：施設のことを含めて、担当課は計画的な方向性は示さなくてはいけないと思います。市民病院もなく、医療体制はぜい弱だと思います。耐震的には問題ないというだけではなく、10年20年先を見越して計画をだしていかないと市民としては不安だと思います。担当課として早急に考えて計画をだしてほしい、出す必要があると思います。

会長：ありがとうございました。その他よろしいでしょうか。

委員：私自身が2年前にここにお世話になったことがあります。本当に助かりました。当時休日急病診療所では対応できず、犬山中央病院に行くことになりましたが、その時、親切丁寧に案内、誘導してもらいました。それだけでも当時ずいぶん助かった

という思いがありましたので、これが市民の肌感覚なのかなと思います。そのあとに金銭的な問題等が出てくると思いますが、これも当然無視できない問題です。先ほど他の委員から出た他へ委託すると逆に経費が高くついてしまう可能性があるなど、いろいろな意見が出ましたし、建物、器具、中身、医薬材料も関係してくるので、やはりいろいろな角度から一つずつ議論していくテーマであると改めて思いました。そのことに改めて気付けた貴重な時間でした。また市議会場で、考えていくぐらいの大きな問題であるとも思いました。

会長：その他ご意見よろしいでしょうか。

会長：よろしいですか。それではありがとうございます。皆さんの忌憚のないご意見をいただけたと思います。また何よりも医師会の皆様のご協力の下で運営している施設ですので、今後とも今以上のご協力をいただければと思います。最後に医師会の先生方よりご意見いただけますか。

委員：休日急病診療所は、（日曜祝日のみの稼働であるため、）診療機材の少ない状態の運営になっています。また建物の老朽化を含めて効率化を図っていくにはどうしたらよいか日頃から考えています。また中で働くスタッフの高齢化が進んでいます。新しく病院ができる際に病院の中に休日診療所が入れることができれば、機材や人材の問題はある程度改善できると思います。また本事業は医師会が行っておりますが、今のやり方だと資金繰りがここしかないの、事業の方法を議論できたかと思います。今は与えられた環境の中で、愛知県と犬山市と力を合わせて業務を行っていきますので、今後ともなにとぞご指導お願いします。

会長：以上で協議事項は終わります。次に（３）その他について事務局お願いします。

事務局：昨年度の会議においていただいたご意見のその後の対応を報告します。

大きく分けて３つご意見をいただきました。１点目は、営繕工事費が少ないというご意見でした。昨年度工事請負費はありませんでしたが、修繕料として診察室のコロナ感染防止のための自動水栓化をはじめ１０件、金額にして１，２２３，２００円の修繕を行いました。また今年度は、工事費を取り、和式のトイレを洋式化する改修工事を行い、今月完了しました。また修繕料として５９０，０００円ほど予算化しており、その中で診察室の窓下流し修繕などを行う予定です。また次年度以降で照明灯のLED化工事の予算化を目指しています。

２点目は休日急病診療所の隣接地に道の駅の構想があり、道路の渋滞が心配であるというご意見でした。このことについては、皆様ご存知のとおり、現在道の駅構想は当面見合わせている状況ですので、構想が再開する際には担当課と協議して、少しでも渋滞が緩和できるよう考えていきたいと思っています。

３点目は、敷地内でＵターンしにくいというご意見でした。このことについては敷地の奥にある訪問看護ステーションの砂利敷地の部分を一部舗装し、切替しなくてもＵターンできるように改良しました。昨年度いただいたご意見の対応については

以上のとおりです。

会長：ありがとうございました。本日用意されております協議事項はすべて終了しましたので、これで会長の任を解かせていただきます。大変ありがとうございました。

事務局：会長ありがとうございました。本日は長時間にわたりご協議をありがとうございました。これをもちまして、閉会させていただきます。ありがとうございました。